



帰国生の学校選び A to Z

●第29回●

現地校との両立が大変だが、補習校は継続させたい

アメリカの学校の新年度が始まってから1か月が経とうとしています。進学または進級したことによって、学習内容が難しくなったり、宿題が増えたり、クラブ活動が厳しくなったりなどと、学校生活に変化が見られることがあります。したがって、この時期には現地校との両立がたいへんなので補習校をやめたいというような相談も目立ちます。その際に、補習校をやめることで帰国時に不利にならないかどうかというご質問をいただくこともあります。補習校に通学していなくても入学手続きや入学試験において不利になることはありません。日本の学校では補習校の在学証明書や成績証明書の提出を義務づけていません。補習校は公教育のカテゴリーに入る学校ではありませんし、どの地域にもあるわけではないからです。

しかし、日本の学校に入学後は日本語で学習しなければなりません。また、学校は文部科学省の定めた学習指導要領に基づき授業を進めています。日本の教科書を使って学習指導要領に沿って学習を進める補習校での学習がとても大切です。入試難関校の受験ということを考えると教科書よりも難しい問題演習が必要になります。それは補習校では対応するのは難しいので、問題集や参考書を利用した学習が必要です。学習塾のある地域ならばそちらを利用するのもよいでしょう。しかし、入試のための学習の基本も教科書の学習内容です。まずは教科書をしっかり学ぶことが大切です。

また、補習校には授業以外にも学校行事がありますし、海外でも日本の学校に準じた経験ができるよう工夫されています。礼儀作法や言葉遣い、日本的なものの考え方も教えられます。それに補習校には日本から来て間もない子どもおり、そのような子供との交流は、帰国後に国内の子供と接するためにとっても役に立ちます。

現地校との両立はとてみたいへんですが、帰国後のことも考えて、補習校はできるかぎり継続させたいですね。

執筆者：丹羽 筆人（文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所 アドバイザー / 名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院) E-mail nihs@ujec.org Phone & Fax 855-669-9300 (名古屋国際)

